

施設園芸(ビニールハウス・温室)の

台風被害を防止するためのチェックシート

ポイント

◎**天気予報等により、積極的に気象情報を収集する。**

○台風の襲来前に、事前の準備をしっかりと行う。

- ① 戸締り、補強等の対策、
- ② 飛来物等への対策、
- ③ 強風への対応、
- ④ 潮風害への対応、
- ⑤ 周辺の施設、機械の点検

○**台風の進行方向の右側**は、特に、強風に注意する。

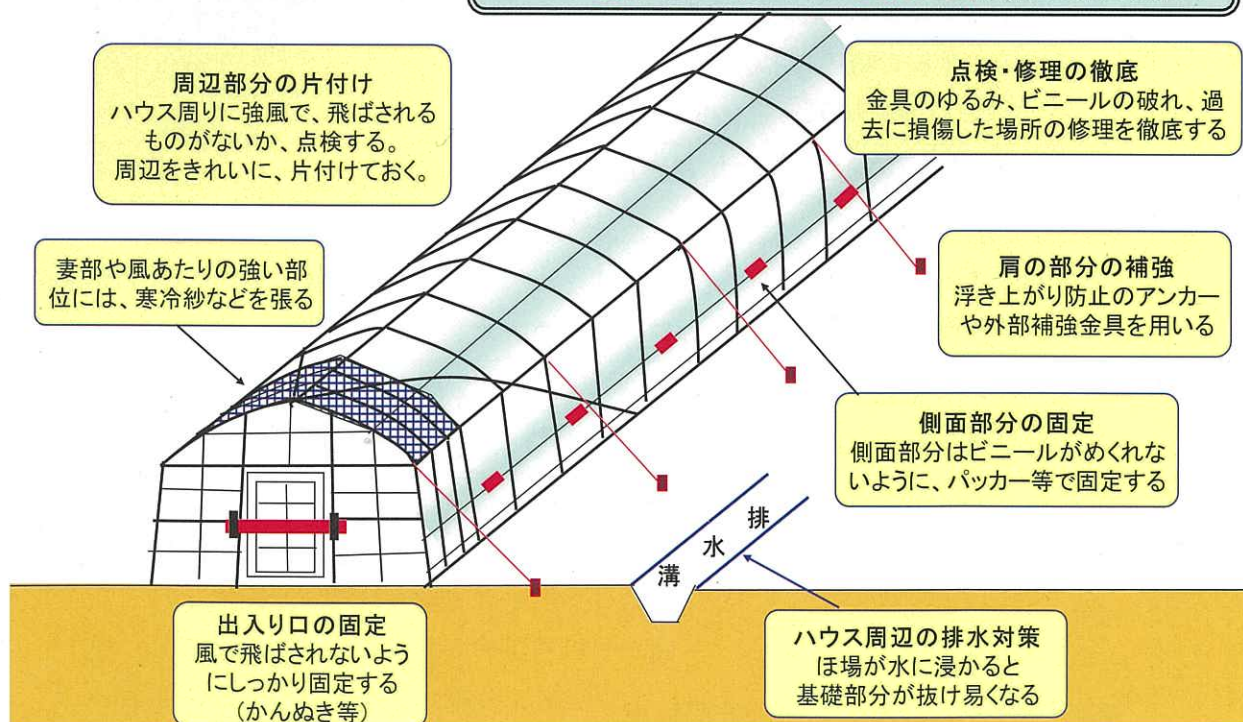
○骨材の保護のため、事前に積極的に被覆材を破った方が、施設への被害が少なくなる場合もある(パイプハウスの場合)。

○**台風通過中は、人命優先のため無理な作業は絶対に行わないこと。**

○台風通過後は早急に施設を見回り、作物の生育回復のため、潮風害対策等、当面の対策を徹底する。

台風接近前の対策

強風に耐えられないことが予想される場合には、**あらかじめ、被覆のビニールを除去し、パイプのみにしておけば、施設の破損は免れる**



※ 詳しくは、「施設園芸における台風・強風対策マニュアル」を参照ください。

◎台風被害を防止するためのチェックシート

●台風が襲来する1日～2日前までに行っておく項目

項目	チェック項目(点検のポイント)	チェック欄	備考(想定される被害、留意点等)	
台風襲来前の準備・点検	1	ハウス・温室の周辺は、片付いているか？ ●飛ばされる恐れがあるものは、施設周辺に置かない。		ハウス周辺のもの、飛ばされないように、しっかりと固定する。
	2	出入り口の戸締りは行っているか？ 出入り口の戸車、レールのはずれや痛みはないか？		強風に建具があおられ破損する。出入り口等が破損すると風が吹き込み、被害が大きくなる。
	3	風が吹き込こむことが予想される「隙間」は、すべてふさいでいるか？ (とくに、天窗、サイド部分、出入り口付近)		風の吹き込みにより、被覆材の剥離、飛散や施設の浮き上がりの原因となる。
	4	被覆材のたるみや破れはないか？		フィルムがゆるんでいると強風によってあおられて被害が生じやすくなる。
	5	被覆材は耐用年数を超えていないか？ ●事前に被覆材を除去しておくことで、強風時の骨材の破断(倒壊)を免れることができる場合もある。		被覆材の破損箇所からの風の吹き込みにより、ハウスが破断・倒壊する可能性がある。
	6	ハウスバンドや被覆材の留め金に緩みがないか？		強風時にフィルムがばたつくことで破れやすくなる。
	7	【鉄骨ハウス・温室】ボルトのナットやブレースに緩みがないか？		ボルトが緩んでいると強度は低下する。
	8	換気部(サイド部分・谷部)から風が吹き込まないような対策は万全か？		側面部分は、スプリング・パッカによる補強対策を行う。
	9	谷樋、縦樋が落葉やゴミで詰まっていないか？		降雨時に樋から排水があふれ、施設内へ浸水する恐れがある。
	10	以前に被災した箇所の修繕は、しっかりと行っているか？ ●風が強く吹く場所は、事前に防風ネット等を設置。 ●破損しやすい部分は、事前に補強しておく。		折れたり、曲がったりしたパイプの再利用は強度が劣り、ハウスが倒壊する危険が高まるため使用しない。また、錆びているものも強度が低下。

項目	チェック項目(点検のポイント)	チェック欄	備考(想定される被害、留意点等)
周辺環境	11	ハウス周辺の排水対策ができているか？ ●周辺の排水溝のゴミは片付けておく。	施設の 基礎部分 が 浸水 すると、基礎が浮き上がりやすくなる。
	12	灯油タンク、ガスボンベ等は転倒しないように、しっかりと固定してあるか？ ●燃料タンクのバルブは閉じておく。 ●重油タンクの蓋が飛ばないように固定。	強風により、灯油タンク等が転倒した場合には、 燃料パイプの破損や燃料漏れ が生じる。
その他の対策	13	補修用テープ、ハウスバンド、スプリング等の補修用資材は準備してあるか？	台風通過後に 早急に応急修理が行えるように 準備しておく。
	14	風を強く受ける部分の補強対策は行われているか？(強風への応急対策)	強風を受けやすいハウスは、肩部分をワイヤーで引っ張ったり、つっかえ棒や外部補強金具で 補強 する。
	15	潮風害防止のため、散水の準備はできているか？ ●事前に、タンクに水を貯めておく。 ●停電に備え、動力噴霧器を準備する。 ●動境の燃料が十分あるか、確認する。	潮風害を受けた場合、台風通過後、 直ちに散水して茎葉に付着した塩分を洗い流す 必要がある。断水や停電により散水ができない場合も想定される。
	16	排水対策用のポンプの準備はできているか？	冠水・浸水 の危険がある場合には準備が必要。
	17	停電に備えて、天窓(手動)の開閉用のチェーンや操作器具は準備してあるか？	台風通過後、 停電 している場合に手動で開閉する。

●台風が襲来する直前に行う対策

直前対策	18	出入り口等、施錠できる場所は、しっかり戸締りしてあるか？ 天窓、サイド換気部はしっかりしまっているか？	隙間からの 風の吹き込み により、ハウスが破断・倒壊する危険がある。
	19	不必要な電源は遮断してあるか？ (窓の自動開閉装置・暖房等)	浸水により、 ショート や 漏電 等が生じる場合がある。
	20	換気扇のあるハウスは、換気扇を積極的にまわして、フィルムを引き付けておくのが良い(吸入口は閉じておく)。	換気扇をまわして、ハウス内部を負圧にすることにより、 強風時にフィルムがバタつくのを防ぐ ことができる。
緊急	ハウス内に風が吹き込む恐れがある場合、 あらかじめ被覆材を破っておく ことにより、骨材の被害を最小限に抑えることができる。(作物被害は大きくなるが、倒壊は免れる)		

●台風通過中は、人命優先のため、作業はおこなわないこと。

◎ビニールハウス・温室のメンテナンス

台風の襲来直前に、あわてて対策を行おうとしてもなかなか対応できません。ビニールハウス・温室は**普段からしっかりとメンテナンスを怠らない**ようにしましょう。

●普段から心掛けておく項目

項目	チェック項目(点検のポイント)	チェック欄	備考(留意点等)
腐食しやすい場所	1	パイプの脚部、接続部分、折り曲げ加工した場所にサビが生じていないか？	パイプ等にサビが生じていると強度が大きく低下する。
	2	ハウスでは棟部分、パイプハウスでは、アーチの上面等、常に結露して乾きにくいところのパイプが腐食していないか？	鉄骨造施設は、少なくとも 5～6年毎に再塗装 を行うことが望ましい。
	3	連棟ハウスでは、谷のところに樋や谷柱、谷梁の部分、部品の接合部分に腐食やサビが生じていないか？	谷どい、特に構造部材として兼用するものは、 防錆管理が重要 となる(強度を保つため)。
	4	雨漏り、浸水等により、常に湿った状態の場所があるか？ 湿りやすい周辺の部材やパイプに痛みがないか？	鉄骨部材やパイプのジョイント部分は、 結露した水 がたまりやすくサビやすい。
基礎・骨材・被覆	5	基礎を固定しているボルトの緩みやサビ等による腐食がないか？	基礎は、建設当時の状態が変化していないか確認。
	6	基礎部分のすぐ近くまで、耕うんすることで、基礎の変形や浮き上がり等が生じていないか？	地盤が緩んでいる と、基礎が抜けやすくなる。
	7	出入り口の戸車やレールに傷みやガタツキが生じていないか？	出入り口の部分は、最も傷みやすい。
	8	ブレース等の緩みがないか？また、サビ等が生じていないか？	強風・沈下等でゆるむことがあるので、2～3年に1回は点検する。
	9	被覆材は破れたり、汚れたりしていないか？ 雨漏りはないか？ ハウス側面のスプリングや留め金付近、巻き上げ部分の被覆材に痛みがないか？	耐久年数を超えた被覆材は台風時に破れやすく、 破れた部分から風が吹き込み被害 大きくなる。
被災履歴	10	集中豪雨やハウスへの浸水によって 基礎部分の土が少なくな っていたり、地盤が緩んだりしたことはないか？	ハウス全体に浸水すると、 基礎部分の土が軟らかくなり、基礎が抜けやすくなる。
	11	以前に強風等によって曲がってしまったパイプを再利用して使用していないか？(新しい部材で補修してあるか？)	強風等により、 曲がったり傷ついたりしたパイプは強度が低下 する。

※ 詳しくは、「施設園芸における台風・強風対策マニュアル」を参照ください。